



# 百合樹

## 百合樹 (ユリノキ)

本校が明治36年、大森に創設された際に植栽された由緒ある樹木。創立100周年の記念樹としても採用された。

### PTA会長挨拶

石原 千郷



平素より皆様方には、PTA活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。

私もこの大役を今年も続投させて頂き、二年目になりました。昨年は無我夢中でしたので、皆様に不快な思いをさせてしまったかも知れませんね、大変申し訳なく思っています。

さて今年も中国・四国地区高等学校PTA連合会大会に行つて来ました、今年の開催場所は岡山県でした。当日朝から暑い日差しの中を、校長先生と宿泊施設から会場まで雑談しながら徒歩で行き、岡山市民会館大ホールの小さめの座席にボンレスポディーを突っ込んで、大人しく講演・発表・研究協議を聴衆。

ん、座席以外はとても感動的な内容でした。特に、その日の講演講師の竹内昌彦さんは全盲の方ですが、現在、岡山盲学校の講師をしながら、ご自分の生い立ちから現在までの体験談話を皆さんの何らかの役に立てばと、講演活動をしておられるそうです。ビックリしたのは、竹内さんがお話をされている時、全盲の方が喋っている様には全く感じないし、それに、ご自分の体験談を私たちに見せるが如く上手に伝えられます。私も思わず感極まり・・・。詳しい内容は、竹内さんの著書『見えないから見えたもの』を、読んで下さい

今から書くことは、私事で申し訳ありませんが、実は私の長男は生後間もなく弱視と判断され、生後四ヶ月で矯正眼鏡をしました。私は息子の視力回復のために、多くの眼科巡りをした経験があり、竹内さんの話に共感し

てしまいました。息子は竹内さんとは異なり、無事視力回復し、今は一緒に仕事をしています。

その昔息子は弱視のため、保育園時代から発達障がいと言われ先生から差別を受けていました。中学校時代では、中学校から別の学校施設へ転校するよう説得され、二十二ヶ月間本校から見放され、終いには高校進学も・・・と言われました。そんな中、息子と私は中学校から『息子さんには絶対入れない高等学校』と言われた高等学校に挑戦し、見事合格でき、高校入学後は生き生きと高校生活を楽しんでいる息子に、夫婦で涙した事を思い出します。

人生様々な経験をされた方は多く、その辛かった経験がいつか活かされる時、人は強くなり優しくなれると私は思います。私と息子の経験は『悪い記憶』と思えば、誰かを悪人にしなければなりません。本当にそれで良いのでしょうか、あの時きつくとあたってくれた人がいなかったら、息子も私も頑張れなかったかも知れません。いつまでも『自分たちを可哀想だと思ってくれ』って思う、弱い人間でいたかも知れません。人間は何がきっかけで変わるかわからないものです。皆さんの大切な子供たちが、この邇摩高校で『他人に優しく自分に厳しく、責任感の強い人間』になってくれること期待しております



### 校長挨拶

山岡 雄一郎



平素より保護者の皆様方には本校の教育活動に対して、ご支援ご協力をいただき誠にありがとうございます。

台風による休校で準備期間が一日減りましたが、体育祭を予定通り八月二十九日に行いました。たくさん保護者の方の声援を受けました生徒たちは、それぞれ全力で競技や応援を取り組み、物事をやりきった充実した笑顔を見せてくれました。準備を進めた生徒会執行部はもちろん、三年生の色組各責任者、大会役員の生徒一人一人が自主的に動き、きちんと役目を果たしてくれたことも体育祭の成功につながりました。改めて、生徒たちの持つすばらしい力を実感することができました。昨年に続き、PTA参加種目の玉入れにもたくさん参加をいただきました。ありがとうございました。

さて、国の「地方創生」の動きを受けて、各自自治体でも「まち・ひと・しごと創生」のための総合戦略」を策定しているところですが、大田市でも六月に第一回の大田市総合戦略等推進会議が開かれ、大田市の人口減少に歯止めをかけるにはどのような対策を取ればよいかが検討されています。経済団体、教育機関、労働団体など幅広い分野の代表が委員となつていますが、私も地元の高校代表の委員として、邇摩高校に何ができるのか、地域の課題をともに考えていきたいと思っています。

本校では今年度から、三年生の総合的な学

習の時間を「銀の哲学」と名づけて、昨年度から行っている、学校での販売実習「瀧摩高フエア」を、模範会社「ファイブスターカンパニー」の運営として企画運営をしていくという授業に取り組んでいます。四月のスプリングフエア、七月のサマーフエアと多くの保護者や地域の方々お越しいただきました。また、二年目となった文部科学省の指定事業「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育事業」では、障がいのある生徒への自立活動や、障がいのあるなしに関わらず、ともにわかりやすい授業を提供するために、タブレット端末を使った授業も始まりました。様々な取り組みが実を結び、一人でも多くの中学生が本校に入学してそれぞれの夢をかなえてほしいと願っています。そのためには、私たち教職員の努力はもろろんですが、保護者、地域の皆様のご協力が欠かせません。引き続き皆様お一人おひとりの力添えをいただきますようお願いして、あいさついたします。

### 一年生 保護者の声

PTA副会長 郷原 寿夫

今年三月の次女の卒業と入れ替わりに、四月から三女が入学し、引き続き、瀧摩高校でお世話になることになりました。昨年成人を迎えた長女も含め、これで我が家の三人娘は皆、瀧摩高校にお世話になることになりました。

三人はそれぞれ個性豊かで、まさに三者三様。それぞれが自分なりの目標を持ち、それに向かつて取り組んできた（いる）姿は高校

生になってから感じる率直な感想です。

ただ、それもしつかりとサポートしてくださる先生方や友人があつてのこと。三女にもこの出会いと環境に感謝し、しつかりと自分のやるべきことを見据え、目標に向かつて前進して欲しいと願っています。

PTA評議員 宮原 道徳

三年生の次男に続き娘が入学し、引き続きお世話になります。

系列の選択を入学早々から考えていかなければならず、「将来どうするんだ」というやり取りで、親子間に重苦しい空気が流れることもありですが、漠然と日々過ごすよりは、目標設定をすることもできる良いことと思います。瀧摩高校の行事や各種フエアは、自分達で工夫し実施することは勿論ですが、それ以上いろいろな人との交わりがあり、人との出会い、やり取りを経験することで自分を知り、自分を高めていくチャンスでもあります。

これからの長い人生においても重要となる高校三年間、部活動も含め、充実した高校生活になることを期待しています。

PTA評議員 山路 英子

今年の春から、息子三年生・娘一年生と二人とも瀧摩高校でお世話になることになりました。

入学して、ようやく高校生活に慣れたかなと思つたら、後期からの系列選択に迫られ、息子が一年生の時には戸惑いもありましたが、自分なりに考え、進んできました。娘も今、迷ったり悩んだりしながら一歩ずつ進んでいます。

それぞれが進んだ道で、色々な経験を通して、将来の目標に繋がるといいなと思つています。

### 教職員の声

「余計な力を抜く」

教務部長 松本 博

私は教員になってから長く弓道部の顧問をさせてもらっています。個人的な意見ですが弓道が上達するためには「余計な力を抜いて弓を引くこと」が非常に重要なことだと感じています。初心者の方は弓の力に負けまいと力任せに引いてしまい、顔を弦で払おうものなら恐怖心からますます力んでしまいうまくいきません。おそろくすべての競技に当てはまると思うのですが、無駄な力が抜けているからこそ肝心なところで必要な力を込めることができ良い結果につながります。これができる人は精神的にも強く、大舞台でも実力を発揮できます。

私たちの生活の中でも似たようなことはないでしょうか。一生懸命頑張っているのに物事がうまく運ばないときは、ふっと肩の力を抜いて周りの景色を楽しむような心の余裕を持ちたいものだと思います。

「語ることでできる経験」

進路指導部長 田中 真理子

秋を迎え、勝負をかけて挑む三年生の姿が目につくようになりました。面接では「失敗」や「困難」について質問されることも少なくはありません。その経験を語る中でその人の本当の姿が表われるからです。

スポーツの世界では日本の選手たちが世界を舞台に活躍しています。苦勞を重ね困難を乗り越えて栄光を手にした姿に、多くの観戦者は励まされ一歩を踏み出す力をもらいます。苦勞を語る選手への言葉には嘘はなく、心に響くものがあります。なにより「今の自分を作った」という自負にあふれ、力強い説得力があります。

皆さんの語る経験が「誇り」として輝くよう応援したいと思います。

「優しい生徒とともに」

一年学年主任 布施 武司

瀧摩高校に赴任してきて一番の印象は、優しい生徒の集団であることです。新任の私を、廊下でのすれ違いざまに挨拶はもろろんですが、気軽に声を掛けてくれたり、遠くからでも手を振ってくれたり、快く歓迎してくれました。今でも続いており、この優しく人懐っこく接するのが瀧摩高校の校風なのであらうと感じています。

三年生は進路に向けて厳しく自分に向き合つて、頑張っている様子を目にします。自分がやるべきことを積極的にに行い、瀧摩フエアや体育祭を成功に導きました。

一年生の主任として、一年生も学校に慣れて瀧摩高校の校風と思われる「優しさ」の表現は徐々にできるようになってきたように思います。しかし、残念ながら掃除や学校行事の準備や片づけなどで指示通りに動くことのない生徒がいます。「だるいなあ」という気持ちが優先してしまうのですが、少し自分に厳しくなつて活動して欲しいと思う時があります。

一年生も三年次には「優しき」と「厳しき」を持ち合わせた先輩たちのように成長して欲しい。二年後の成長を楽しみに、私も学校生活を送っています。

「お・い・あ・く・ま」

二年学年主任 松田 直子

人は誰も、良好な人間関係の中で心穏やかに楽しく生活したいと考えます。しかし心に棲む悪魔が時折悪戯し、負の感情を生み出させ、これを邪魔してくるといいます。そんな心の悪魔を呼びとめ戒める言葉「おい！悪魔！」を、時々思い出すようにしています。

お・・・おこらない

い・・・いばらない

あ・・・あせらない

く・・・くさらない

ま・・・まけない

負の感情にとらわれても、周囲を不幸にし、自分の力を素直に伸ばすことすらできなくなるのに、こういった感情に身を委ねることは、何故だか実に容易です。でもだからこそ、そんな自分の中の悪魔を戒めることは、意図的に、エネルギーを費やして行っていくべきことだと思っております。

生徒たちの身近なところにいる大人のひとりとして、生き方を行動で示すことができているか、時に振り返ることを忘れないでいたいと思います。

### 体育祭分団長コメント

「二連覇しました!!」

青軍 三年一組 山路 大亮

こんにちは。青軍分団長山路大亮です。去年の体育祭に続き、今年も優勝を果たしました。それも、頑張った三年生のおかげだし、何よりそれについてきてくれた一、二年生のおかげです。

応援練習では三年生が足を引った感じだったけど、よくついてきてくれました。ありがと。特に応援合戦の本番では、大きな声を出してくれたし、みんなが楽しそうにやってくれたのがとても嬉しかったです。

青軍のみんなは運動神経も良く足も速くて、最後の分団リレーは世界陸上を見ているようでした。ラッキーボーイをやったけど、みんながラッキーボーイ、ガールだぞ♡

最後の体育祭、優勝させてくれたありがとう！三年生みんな忘れられない最後の最高の体育祭になりました。一、二年生も忘れないでね。本当にありがと！

### 「千甲万紫」

紫軍 三年三組 宮原 康行

こんにちは。紫軍分団長の宮原康行です。紫軍の分団テーマは、千甲万紫、気持ちを一とつにやっちゃおうねでした。

紫軍は、2000年から優勝することができていなかったので、今年こそはという気持ちで挑みました。練習の少ない中で夏休みから取り組み、なんとか完成することができました。初めての一からの準備で、三年生の全員が悩み何をしていいのかわからなかったと思います。みんなで協力して最高の体育祭になったと思います。

僕は団長として何もできなかったのですが、競技や応援で一位を取りました。結果は

二位で優勝はまたできませんでした。順位にあらわれない達成感どの軍団にもあつたと思います。来年こそ優勝してほしいです。紫軍のみなさん、こんな僕を盛り立ててくれて本当にありがと！

### 「応援一位」

赤軍 三年一組 中川 和明

こんにちは。赤軍分団長の中川和明です。夏休みの終わりから準備をはじめ、短い期間でしたが三年生みんなで協力し合い頑張りました。正直、最初の応援練習の時は一、二年生がついてきてくれるか心配だったし、不安な事もたくさんありました。でも、周りの三年生が支えてくれたおかげで一、二年生もついてきてくれました。団長としての仕事はあまりできませんでしたが、赤軍みんなが練習を頑張ってくれたので、応援の部では、一位を獲得することができました。優勝は逃したけど、最後まで笑顔で楽しくできたので良かったです。みんなの笑顔は最高でした(笑)。

一、二、三年生、時間が少なく熱い中で練習、お疲れ様でした。

体育祭が終わって大変なこともあったけど、分団長をやった良かったと思えました。最高に楽しい体育祭でした。赤軍のみんな本当にありがと！

### 「今、高等学校に求められる特別支援教育とは」

教頭 三島 一友

本校に入学する生徒の中には、人間関係づくりに困難を抱えていたり、身体について不安を感じていたり、また「発達障がい」等

の診断を受けていたとの報告を保護者から頂くことがあります。今、特別支援教育を必要としている生徒の数が増加する傾向にあると言えます。その対応が急がれる状況でありました。

全国の教育の現状を数字でみると、義務教育段階で児童生徒数は減少傾向にあり、一方特別支援教育を必要とする児童生徒数は、年々増加する傾向にあると文部科学省の統計は示しています。

このような現状を踏まえて本校では平成二十五年に島根県立瀬摩高等学校活性化プランを策定しました。「銀の折畳」を始め現在ある教育資源を見直し再構築したものであります。生徒達にとって魅力と活力に溢れる瀬摩高校を目指し、一人でも多くの中学生に魅力を発信できるオンラインワンの高等学校を目指しています。このような本校の現状を踏まえ活性化プランでは「特別支援教育の充実」を重要な施策と位置づけました。そのような中、平成二十六年四月より三カ年文部科学省指定「高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育」事業を受けることとなり、活性化プランの中核に位置づけ研究を開始することとなりました。

この指定事業の研究を要約すると次の項目となります。

- ①人間関係の形成を中心とする「自立活動」を教育課程に位置づけること。
- ②隣接する出雲養護学校瀬摩分教室と連携しながら、「個別の教育計画」並びに「個別の教育支援計画」を作成し、それらに基づく指導や目標への取組等について研究すること。
- ③一斉授業をICT等を活用して授業改善を

図り、障がいのある生徒もない生徒にとつても分かる・できる授業の在り方を研究すること。

この指定事業の推進にあたってまず取り組んだのは研究テーマである「自立活動」の名称を「煌めく羅針盤」と命名し、ここに込められている理念を全教職員で共有することから始めました。

本名称の「煌めく羅針盤」には、生徒個々が抱える諸課題を自己の手で切り拓いて欲しいとの願いを込めました。キャリア教育の視点も含めて、今後の人生を長い航海に例え、その在り方生き方を問い続けられる力、即ち海図やコンパスを自らの手で育ててほしいとの思いを「羅針盤」に込めました。また、将来の夢や志をもって未来を切り拓いていくために、他者すなわち多様な価値観をもつ人々と関わり合い、自己を正しく理解し他者を受容するなかで、手にした羅針盤で、明日に「煌めく」人生を送って欲しいとの願いを込めました。

この事業を受けた当初に、なぜ高等学校で特別支援教育を実施するのかと質問を受けました。…その背景は平成十八年に「障害者の権利に関する条約」を国が批准したことにあります。

その内容は、「障がい」を理由とするあらゆる差別の禁止や障がい者が他の者と平等にすべての権利及び基本的自由を享有する等が示されています。

また第二十四条では、インクルーシブ教育システムの理念が述べられています。障がいのある者が障がいのない者と共に学ばず組み

や、障がいのある者が、教育制度一般から排除されないことや、初等中等教育の機会が与えられることが規定されています。

このように説明をしますと何だか難しく感じてしましますが、遼摩高校は、文部科学省の指定事業に取り組み、その研究成果が県内外から期待されるどころです。しかしながら、研究することが目的ではなく、私達が目指すは、一人一人の生徒が学校で大切にされ、生徒の自己肯定感を高めさせることです。さらに煌めく羅針盤に込めた思い即ち、共生社会を生き抜く力をしっかりと身につけさせることにあります。

そのために私達教職員が今成すべきことは何かを考えた一年でした。

学校生活の基本にこの考えを浸透させて、特別支援教育の充実を図りたいと考えています。今年度、本校の取組についての視察が、文部科学省特別支援教育課調査官を始め全国から毎月のように依頼があります。現段階で、島根県の高等学校における特別支援教育のトップランナーとして注目されています。期待や関心で終わらせないためにも、学校経営の中心にしっかりと生徒を据えて目指す目標に挑みたいと思います。

受講した生徒は、「中学校までは、自分のことを否定されることがあったが、この授業で自分のことが肯定的に認められたことがうれしかった」「将来に向けて今の自分とどのように向き合えばいいのか考えるきっかけとなった」「自分のことを先生達が見守ってくれるような安心感をもつことができた」と「煌めく羅針盤」の感想を寄せてくれました。

## ◆入学式



PTA 会長祝辞



校長式辞



宣誓  
田原 佳奈子さん



3組  
櫻井 教諭



2組  
東 教諭



1組  
森脇 教諭

